

平成 25 年度 上越市外国語部会 活動報告

部長 相浦 美子

1 研究主題

「小中連携」を意識した小学校外国語活動及び中学校英語教育の指導の工夫（3年次）

2 研究の概要

当部会では、小中学校教諭が隔年で交互に授業公開をし、小中学校の教諭と市内に勤務するALTが一堂に会して研修を深めている。平成23年度より、小中学校の「円滑な接続」に向けた指導の在り方について研修を重ね、今年度は、具体的な授業スタイルを提案することを試みた。

3 研究の実際

小学校第6学年を対象に、小中学校の教諭と両校を担当するALTの3人でTT指導を行った。

小中の「接続」を意識した授業を構想する上で、第1に重視したことは、文字と音声の関連を児童自身に気付かせていくために、フォニックスの指導の工夫したことである。低学年から外国語活動で多様な活動を経験してきた6学年の児童は、チャンツやゲーム等だけではなく、読むことや書くことへの興味関心が芽生えてきている。そこで、このような実態に応じ、無理のない形で、話すことと読むことの「ゆるやかな接続」を授業の中で試みた。



第2に重視したことは、小中間での「教具の共通化」である。小中が共に扱う「職業」に関する題材で使用するカードを小中共通のものにしたり、中学校の教科書に載っているフォニックスのカードを小学校から活用したりすることとした。

さらに、3人の教師が授業の中で取り扱う単語カードを分担し、音声と文字とジェスチャーでその意味を提示する。音声によるインプットを苦手とする児童にとっては、提示された文字は大きな手掛かりとなった。また、3人の教師は、それぞれの持ち味と役割を發揮し、きめ細かな支援をすることで、児童は安心して活動に取り組むことができた。

授業後の協議会では、小中が連携した3人体制での授業は、児童にとって大変有効であるが、時間的な制約がある中で、どの程度可能であるかという不安の声も聞かれた。その後の中学校区ごとのワークショップでは、具体的な「接続」の授業の実現に向けた活発な話し合いが行われた。

4 成果と課題

今年度の提案授業は、小中連携を進めていく上で大変示唆に富む内容であった。小中双方の教諭が互いの教科書を見合い、学習内容を知るところから出発した。時間的な制約や学校の規模の違い、ALTが小中で異なるなど、各中学校区には課題はあるが、まずは一步を踏み出して実践することが大切であることを参会者全員で確認した。従来の出前授業や体験入学の際の授業をさらに工夫し、小中を接続する授業として改めて見直すことも考えられる。

2020年からは、小学校5・6年生の外国語活動が教科化され、小中の円滑な接続は今後ますます重要になってくる。「知の連携」の礎は、「人の連携」つまり教諭同士の連携であると強く感じた。